

No.647 (改題607号)
2024年
7月10日(水)

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所: 新社会党
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三成工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫県本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

ひょうご

碑

79

物語

第2次世界大戦が激化し始めた時、戦闘機のパイロット養成を目的に1943年(昭和18年)、加西市鶯野町に長さ1200m、幅60mの鶯野飛行場が出現した。農民など

平和祈念の碑

1千人を動員し、手作業とトロッコだけで1年足らずで完成させたという旧日本海軍の空港で、姫路海軍航空隊が開隊された。川西航空機姫路製作所で作られた「紫電」

(加西市鶯野町) 全国から飛行機操縦訓練のため多くの練習生が集められ、厳しい訓練を受けた。1944年(昭和19年)からは戦況が悪化する中、海軍では神風特攻隊が編成されたが、そこに従軍した訓練生も多かった。

西地域域活性拠点施設「soraかさい」の入り口にこの碑がある。周辺に防空壕跡、爆弾庫跡、対空機銃座跡などがあり、滑走路跡も現存する。神戸から車で約70分、電車で約75分。



旧鶯野飛行場の滑走路跡が現存する「soraかさい」エリアの入り口にこの碑が立つ

党建設と選挙勝利へ決意を共有

総選挙・25尼崎市議選・25参院選

新社会党兵庫県本部が定期大会



大会討論では20人の代議員から発言があり党建設や大衆運動の具体的な取り組みとその成果が報告された=6月17日、神戸市中央区

新社会党兵庫県本部(栗原富夫委員長)は6月16日、第30回定期大会を神戸市内で開き、この1年間の党建設や大衆運動の取り組みなどの活動を総括し、来る総選挙や参院選の国政選挙とともに、県本部にとっては命運がかかる来年度の尼崎市議選での議席引継ぎに全力をあげることを、そのためにも必須の課題である党建設にさらけ取り取り組むことを意思統一した。来年度の参院選に社民党比例区から推薦候補として立候補することをすでに全国大会で決定している甲斐正康・新社会党市民運動委員長(46歳)も大会に顔を見せ、兵庫県本部の役員と決意を共有した。

かい正康さん参院選へ決意

大会の冒頭、栗原委員長は、「この1年間、統一自治体選挙での厳しい結果を踏まえ、運動と組織を『次世代につなぐ』ことを意識して、岡崎彩子新書記長のもと、役員・機関紙の拡大やそれを支える学習会づくりに取り組んできた。それを続けながら、戦争をさせないための大衆運動、自公政権に終止符を打ち総選挙闘争を闘い抜き、1年後の尼崎市議選や参院選で

議案提案後、今年は午前中から大会討論が始まり20人の代議員から発言があった。特徴的だったのは機関紙拡大運動の具体的な取り組みが数総支部から報告され、いかに仲間と結びつき、つながるかという点での努力や



大会代議員の前で甲斐正康さん(中央)と岡崎ひろみ委員長、栗原富夫県本部委員長がガッチリ握手=6月17日、神戸市

の甲斐正康さんの勝利に結実させよう」と訴えた。来賓あいさつは、立憲民主党県連・井坂信彦代表、共産党県委員・松田隆彦委員長、社民党県連・梶川美佐男代表の3氏から受けた。

結果が率直に紹介されたことだ。また、憲法を生かす会などの地域での取り組み、介護保険改悪反対の取り組み、大学誘致を前提とした王子公園の再整備をめぐり「公共を

守れ」と3年にわたって続けている市民運動への参加など、大衆運動の報告も行われた。選挙闘争については、来年6月の尼崎市議選で都築徳昭議員の後継者として闘う一ノ瀬剛さん(45歳)や、あわはら富夫神戸市議からバトンを受け27年神戸市議選を中央区で挑戦することになった坂井大起さん(34歳)の決意表明もあった。午後の討論の冒頭には岡崎ひろみ中央執行委員長(全員再)永井俊作さんは副委員長を退任し執行委員に

かい正康さん囲み 党近畿ブロックで交流集会

新社会党近畿ブロック協議会(議長・山下けいき茨木市議)は、25年の参院選比例区予定候補としてすでに活動を始めている甲斐正康さんと決意を共にし、取り組みを進めていこうと6月17日夜、大阪市内で開いた。集会には近畿の各府県本部から約40人が参加し、甲斐さんへの質問や政策についての要望なども交えて参院選に向けた意見交換を活発に行った。山下議長と岡崎ひろみ中央執行委員長のあいさつにあたり甲斐さんが発言。生い立ちや政治活動への関わりなど自分のこれまでの歩みと新社会党との出会いなどを自己紹介し、参院選にかける真っ直ぐな思いと決意を率直に述べた。「自分は労働者の中の労働者」と胸を張り、「誰もが幸せに暮らせる社会への変革を」と政治課題や社会変革について熱く語る甲斐さんの人となりに触れ、参加者のなかにはトラック運転手の経験者も何人かいて、20年以上トラックのハンドルを握ってきた甲斐さんへの親近感が深まった。交流を通じて見えてきた甲斐さんの運動への情熱、軽快なフットワーク、パワフルな行動力などに参加者の共感と期待感は一層と高まり、参院選への取り組みの決意をしっかりと共有し合える集会成为った。



近畿の各府県本部から約40人が参加して初めて近畿に入った甲斐正康さんの訴えに耳を傾けた=6月17日、大阪・国労会館

水脈

お札が新しくなった。一万円札は、福沢諭吉から渋沢栄一に。五千円札は樋口一葉から津田梅子。千円札は、医系の引き継ぎか、野口英世から北里柴三郎。このところテレビで頻頻とお目にかかる資本家の真打、渋沢栄一はあくどさを薄めるには恰好か。五千円札は女性と決まっているわけではあるまいが、一葉の退場は名残惜しい。質屋通いや貧乏暮らしには親近感をもっていただけに。発行枚数のせいなのか、親近感の割には財布に滞ってくる時間が短かった。「警備山の動かない……」と小学生の唱歌に唄われた先代の千円札に比べれば、北里柴三郎って誰?という人もまだ少なくはない新千円札か。昔から新札が世に出る時には、それにとってもなつて詐欺などの犯罪も少なくならなかった。珍しくて欲しいが、人に高く売ったり、旧札は使えなくなると騙して格安で引き取ろうとした。偽札をつかまされても、判断のしようがない。あの手の手の詐欺がはびこる時代である。気をつけるに越したことはない。新札発行を商品価値上げのチャンスにする悪徳業者も頭をもたげたらどう。ともあれ公共料金の値上げを許してはならない。政府が政策の失敗で自らの紙幣を偽札にしてしまっている。

# かい正康さんと語る会 県内2カ所で開催

6・17



芦屋で開かれた「語る会」には30人ほどが参加して甲斐正康さんと率直に意見交換を行い共感が広がった＝6月17日、芦屋市

新社会党兵庫本部は、大会翌日の6月17日、甲斐正康さんと語り合う「語る会」を午前8時から午後6時30分まで、芦屋市で開いた。

石、午後は芦屋の2か所で開催した。甲斐さんは、「子どもの頃、働きの父と優しい母に大切に育てられたが、お金の問題で両親がよく言い争いをしているのを見るのは辛かった。お金を振り回される社会は嫌だ、早く自立したいと、高校を中退して父の左官業を手伝い、その後、長距離大型トラックドライバーとして誇りを持って働いてきたことが自分の原点」と生い立ちから語った。そして、「労働の規制緩和を推進してき

## 第56次まなぶ 講演会開催 県内6カ所 7.5～7.22

労働大学まなぶ友の会兵庫県協議会は、「人間らしく働き続け、生き続けるために」をテーマに第56次まなぶ講演会を7月5日から7月22日の期間、県内6カ所で開催。参加費は800円。時

## 改憲の動きをウォッチング

■「岸田改憲」破綻 ストップ改憲の世論いっそう盛りあげよう  
総裁就任以来、今年9月までの任期中に改憲を実現すると繰り返し公言してきた岸田首相。実現のタイムリミットとされた通常国会は、憲法審査会で改憲案が作れず、改憲発議をすることができなかった。「岸田改憲」の破綻である。  
改憲5党派（自民、公明、維新、国民、「有志の会」）の奇立ちと策動については前号で触れた。その5党派は通常国会閉会後も案文作成のため、閉会中審査を求めている。岸田首相も閉会後の記者会見で「改憲の機会を国民に提起するのは政治の責任だ」と案文作成の促進を促した。  
一方、立憲は欠陥法と言われる国民投票法の改定を「改憲発議の前提」としてかねてから主張している。最低投票率の設定や有料意見広告の規制などを求めている。  
立憲野党と改憲派の攻防を注視し、ストップ改憲の世論を盛りあげよう。  
■「慰霊の日」平和宣言  
以下、日/会場/講師の順。▼7月5日(金) 神崎・市川町就業改善センター/小林のみ子(開催済み)▼10日(水) 明石市立勤労福祉会館/小林のみ子▼11日(木) 但馬・豊岡市民会館/津野公男▼12日(金) 垂水区文化センター/小林のみ子▼18日(木) 北区文化センター/菊地憲之▼22日(月) 兵庫区文化センター/細川雅弘(敬称略)

また、このような沖縄の現状は、参列した岸田首相らに「無念の思いを残して犠牲になられた御霊を慰めることになっていくか」と問いかける。岸田首相はあいさつで、辺野古新基地建设や自衛隊増強などに触れなかったが、「会場から激しいヤジが飛んだ」と琉球新報は報じている。そして「宣言」は、「沖縄県民が願う、平和の島の実現のため、在沖米軍基地の整理・縮小、普天間飛行場の一日も早い危険性の除去、辺野古新基地建设の断念など、基地問題の早期解決を図るべきだ」と政府に迫っている。

さらに「宣言」は、世界の平和と安定に向けて「それぞれの価値観の違いを認め合い、多様性を受け入れる包摂性と寛容性に基づく平和的外交・対話などのプロセスを通じた問題解決である」と強調している。また、2022年の「安保3文書」により、自衛隊の急激な配備拡張が進められており、悲惨な沖縄戦の記憶と相まって、私たち沖縄県民は、強い不安を抱えている」と述べた。政府に対する厳しい抗議の声だ。(中)

## 私の主張

定例会見やイベント等で目にする斎藤知事の若く真面目で静かな印象からは、パワハラなどは想像できない方が多いのではないかと。今回の真実はこれからの百条委員会でも明らかになるが、原因は知事や副知事・部長なども含めてその人間性・人格に問題があることだ。知事はすぐに感情的になる(キレる)。権威主義者で「自分は県の最高執権者である」との発言もある。その人間性は、3月27日の記者会見での「事実

## 兵庫県議会が百条委員会設置 斎藤知事告発文書の真偽調査

日に処分なく退職となった。

斎藤知事は現在47歳。自分よりも行政経験の長い年長の部長や県民局長を平気で怒鳴る。知事曰く、「強・厳しく指導した」。筆者が古いのかも知れないが、いくら知事であっても行政経験の長い年長者を怒鳴ることなど筆者には考えられない。東播磨市市長懇話会会場となった考古博物館での出来事だ。会館入り口20メートル手前で降ろされ、歩かされたことに對して十分な配慮(動線)が欠けていると怒鳴った。ちなみにそこは、普段から車

しての受領ではないと言ひ、また、PRのためであれば商品を受け取ることも言っている。県下の特産品や農産・海産物等の受領も、以前からの慣習の範囲としている。中には、但馬地域でお土産とされた松葉かきを、県職員3人が「こんな高級なものは受け取れません」と断つた分も含めて持ち帰っていることが報道されている(デイリー新潮)。これが慣習の範囲か? これらは指摘されたことに對する後からの辻褄合わせ・詭弁である。

公職選挙法や地方自治法違反などもあるが、(文責:えいちゃん)

# 災害とアスベストの

## 調査・研究を促進

### ひょうご労働安全衛生センターが総会

NPO法人ひょうご労働安全衛生センターは6月15日、神戸市内で第19回通常総会を開催した。総会は、第1部総会行事と第2部記念講演の2部構成で行われた。

第1部では主催者を代表して小西達也理事長が「私たちは小さな団体だが、これからもみんなで

25年1月のシンポジウムへ向けて準備を進めることが確認された。

その後、参加者の4人からこの1年間の取り組みが報告された。能登半島の被災地へ防じんマスクを届ける活動の報告では、被災地ボランティアの人々に向けた防じんマスクの支援や、アスベストに対する正しい知識の啓発活動を継続する必要性を学んだ。

第2部では「阪神・淡路大震災とアスベスト」をテーマに、熊本学園大学の内地重晴教授が記念講演を行った。内地教授は、「阪神・淡路大震災でのアスベスト飛散によって、労働者や住民に健康被害が発生しており、今後も発症者が出る可能性が高い」と警鐘を鳴らし、「被災した建物は、解体



総会の冒頭にあいさつする小西達也理事長  
＝6月15日、神戸市中央区

時のアスベスト飛散防止対策と分別処理の徹底が必要だ」と、災害時のアスベスト対策の取り組みを強調した。(菊地元樹)

# 労組との連携強化を再確認

23年度の相談件数は114件  
ひょうご働く人の相談室が総会

労働相談を専門に活動する「NPO法人ひょうご働く人の相談室」の総会と研修会が6月17日、神戸市内で開かれた。

宅待機命令が出された」といふものであった(その後、退職)。2件目は、民間の全国チェーンを展開する洋品店に勤務の女性。結局、上司が謝罪し

第1部の総会議事では、活動の総括と活動計画、決算と予算、役員体制などすべての議案が可決・承認された。

第2部の研修会では、同相談室理事でもある特定社会保険労務士の有田成子さんを講師に、24年4月から改正された「労働条件明示のルール」について学習した。



総会であいさつする大槻信夫理事長  
＝6月17日、神戸市中央区

相談活動は、登録した27人の相談員が交代で事務所に詰めて年間を通じて受け付けている。23年度は通常の相談で65件、10月の「メンタル労災・ハラスメントホットライン」で49件、あわせて114件の相談を受けた。

その主な内容は、①パワハラとそれに伴う精神疾患の相談が多く、約4割を占める、②高齢者・障がい者を対象とする事業所、学校、行政・公社会など公共サービス部門の割合が3割を超えている、③両親など家族が相談してくるケースが多い、などの特徴があった。

また、ユニオンなど労働組合を紹介し支援を依頼するケースが20件あった。増加しているいじめやハラスメントによって

### 7・20に社会主義セミナーin近畿

### 「苦境に立つドイツ左翼党のいま」

07年の誕生後、ドイツ社会で大きな存在感を示してきたドイツ左翼党だが、最近では党存亡の苦境にある。その今を木戸衛一さんに学ぶ。参加申込は072・242・6351(FAX)へ。

2024 社会主義セミナーin近畿  
●7月20日(土)14時～16時30分  
●大阪・PLP会館 4F中会議室  
●講師 木戸衛一さん(大阪大学招へい教授)  
●参加費10000円 ※事前申込制

# 地域ユニオン あちこちあれこれ

労働相談活動は但馬ユニオンにとっては最も重要な取り組み課題である。その目的は、組織強化・拡大だ。組織強化とは組織

合員の労働者としての意識の向上と人材の育成である。拡大とは相談者ユニオン組合員として獲得し、他職場や地域への影響力を拡大することだ。しかし、現状はその目的が十分達成されていない。

## 労働相談には様々な取り組み方が...

昨年労働相談の件数は5件であった。1件目は、男性で民間会社に勤務していたが、「同僚や上司に暴言を吐いたため自

たが、パワハラ問題での相談だった。3件目は、女性で不当な解雇を受けた件。相談者が淡路在住だったのであかし地域ユニオンにお願いした。4

りたいと匿名でメールがあった。以上のように、但馬ユニオンは労働相談が毎年少ないのが現状である。これには様々な要因が考え、活動の停滞の要因になっていると考えられる。従って、組織強化の観点から、但馬ユニオンは知らない職場を訪問する力量はないが、「電話の前でただ、鳴る」のを待って

件目は、男性で職場でのパワハラの相談。これまで1回目的の団体交渉をし、現在も交渉は継続中。この他、新社会党兵庫本部にユニオンの活動を知

えられるが、その一つは宣伝活動の不足だ。その上に、労働相談に対応できる組合員が少ないことである。そうした状況が、「絶対、この取り組みでないとダメ」とかはないと思う。取り組み方は力量などの条件を考慮して取り組んでほしい。

24年度の但馬ユニオンの運動方針にも掲げた。岡田一雄(但馬ユニオン書記長)

# 夏が来れば 半田手延べそうめん

## 阿波白糸

徳島県つるぎ町半田 芝製麺

300年の伝統を誇る麺のふるさと、半田。霊峰剣山の寒風と吉野川の清らかな流れに育まれた里で、原材料と製法にこだわって作り続ける芝製麺の人気の定番商品を今年もご案内します。



太麺	2キロ箱入り	3,000円	3キロ箱入り	4,400円
細麺	2キロ箱入り	3,000円	3キロ箱入り	4,400円

- 毎月のお米の配達時にお届けできます。
- お中元やお盆のお供え用として送られる場合は、宅配便(料金別途)利用となります。随時、受け付けております。どうぞご利用ください。

(有)ぴいぷる  
電話/ファックス 078(531)0135



# おんのだ目

6月23日、通常国会は閉会した。昨年発覚した自民党の政治資金パーティー裏金問題をめぐって多くの時間が費やされたが、政治とカネの根っこの問題は、何ひとつ解明されないまま、改正政治資金規正法としてザル法のまま成立した。

また、英・仏との次期戦闘機共同開発条約、改定防衛費設置法、地方自治法改定など戦争準備が進んだ。恐ろしいことだ。オンラインで20万筆を超える反対署名があった離婚後共同親権導入の家族法や「育児・介護休業法」など身近な課題の法律も改正されている。

一方、30年越しの要求が続く「選択的夫婦別姓制度」は、今国会でも再三成立を求めて質問項目にあがっていたが、岸田首相の答弁はいつも「別姓」と言わずに「別氏」と言い、「家族が壊れる」と自民党の決まり文句の答弁を繰り返して、明治の民法、家制度に固執し続ける。なぜ、結婚したら夫(妻)の姓に変えなければならぬのか、仕事等で不都合が生じ「実務的」でないのに「選択」を許さない政治。同日、K新聞では、「夫婦別姓、先送りできぬ」の見出しで経団連会長の記者会見の記事を掲載。ジェンダー問題に取り組まない日本競争力が弱体化し

てしまうと背景を説明し、「選択的夫婦別姓」の早期導入を求めたと報じた。すでに9割の企業が通称使用を認めているそうだが、現実には多くの女性が働き方の中でも不都合を感じていると問題を指摘している。

2021年発行のちく

## ジェンダー公正は134年の遅れ

フランスは多様なカップルのあり方が少子化に終止符。ドイツは別姓が開く女性活躍の道。ベルギーは「普通」。韓国は戸籍制度を破棄した絶対的夫婦別姓の国、など。

自民党の「選択的夫婦別氏制度を早期に実現する議員連盟」の議員も座談会に参加しており、自民党の中で執拗に反対しているのは1/2割と述べている。賛成派も家族を大事にする点は同じだとも。

時間として世界経済フォーラムがジェンダーギャップ指数と順位を発表した。政治分野で女性閣僚が過去最多に並ぶ5人となったことで少しだけスコアが上がり順位も146か国中118位になった(前回125位)。

深刻なのは経済参画で、同一労働における賃金の男女格差と管理的職業従事者の男女比率の低さが指摘されており、このままでは「ジェンダー公正の達成まで134年かかる。これは5世代分に相当する」のだそうだ。

政治・経済分野で女性が普通に活動できる日はまだまだ遠いのか。(加納花枝)

ま新書『夫婦別姓』を読んで見ると「夫婦同姓が法律で強制されているのは今や日本のみ」とあり、海外に住む7人がそれぞれ別の国の歴史や家族の形を執筆している。英国はすべての人に「生きたい名前」で生きる自由を。



## 『イスラエル軍元兵士が語る非戦論』

ダニー・ネフセタイ著／集英社新書／1100円(税込み)

本書は、現在日本人女性と結婚し、埼玉県秩父市で木工家具製造に携わっている元イスラエル軍兵士であるダニー・ネフセタイ氏の人生をつづった手記である。

イスラエルに生まれ、「国のために死ぬのはすばらしい」と教えられ、軍隊に憧れてパイロットを志望したもののかなわず、3年間空軍のリーダー部隊に勤務したのち、徐々に軍隊の矛盾に気がついてイスラエルの過ちを指摘するに至った過程が書かれている。

## 体験から憲法9条の理念に到達

第2次大戦中にヨーロッパにおいてナチス・ドイツのホロコーストに遭い、600万人ものユダヤ人が殺され、これを免れたユダヤ人がパレスチナの地にイスラエルという国

場を建国を図りながら、自衛の名のもとにパレスチナ人への虐殺を正当化してナチス同様の行為に手を染めていく恐ろしさも愚かさも明らかにされている。

旧約聖書を盾にユダヤ人がパレスチナ人の土地を奪うことを正当化したり、イスラエル軍の行動はすべて防衛のためであるとパレスチナ人に対する攻撃をすべて正当化し、その結果が、「憎しみが憎しみを呼ぶ」現在の

## 本棚

イスラエルとパレスチナの泥沼のような状態をもたらしたことが、自らの人生体験として語られており、「抑止論」に立って軍隊を維持することがどれほど愚かなことであるかを赤裸々に語っている。パレスチナ人を虐殺したイスラエル軍自体も決して健全ではあり得ず、イスラエル軍兵士の年間死亡者の3分の1から4分の1はなんとPTSDからくる自殺者が占めるといふ軍隊自体の矛盾も明らかにされている。

このようなイスラエルの現状はかつての本が「神国」という選民意識を持ち、その神の国日本を防衛するために鬼畜米英と戦うという意識を植え付けられたこととの類似性に驚かざるを得ない。

そして、ダニー・ネフセタイ氏が書き着いた結論は、核兵器や生物兵器、化学兵器等の廃絶ではなく、最も人を殺してきた通常兵器

自らの廃絶、すなわち軍隊と交戦権の否認という日本国憲法9条の理念こそが人類を救うという思想だ。

その日本が「抑止論」に立って、敵基地攻撃能力を備えようとし、挙句の果てに憲法9条という戦争をなくすために人類が積み上げてきた努力の「精華」たる条項を変えていくこととしていること愚かさを訴えている。

日本国憲法前文や憲法9条は非常識だ、非現実的だ、という人たちがいるが、パレスチナの地で何の罪もないパレスチナ人の戦争を経験した元イスラエル軍兵士であるダニー・ネフセタイ氏の人生体験に基づく発言は極めて重い意味を持つと言つべきであろう。訥々とした口調で書かれているが、一読をお勧めしたい。

※本稿は、『新社会政策委員会ニュース』第96号(24年4月)から発行者の了承を得て転載したものです(文庫は変更してあります)。

《編集部》

さらに避難民のキャンプに赴き、食糧支援や避難民の子どものための学校へ支援金を届けるなど精神的な行動を展開している。こうしたコ・パウ監督の行動の実録がこの映画となっている。

困難な状況でも映画を撮り続け、潜伏中のジャングルで短編映画「歩まなかつた道」を制作し(2022年)、さらには本作も制作し、抵抗活動の実態を国内外に発信している。

コ・パウ監督の次回作が日本に届いたら、ぜひ映画館に足を運んでほしい。

(大坪)

## 夜明けへの道

この映画は、ミャンマーの軍事クーデターにより、指名手配となった映画監督が自身の逃亡生活と決意を記録したセルフドキュメンタリーだ。

まずはミャンマーの基情報から。ミャンマー(旧ビルマ)は、東南アジアの西の端に位置し、タイ、中国、ラオス、インド、バングラデシュに

囲まれている。首都はネピドー。7割を占めるビルマ族のほか、シャン族、カレン族、カチン族、ラカイン族など公式に認められていないだけで135の民族を抱える多民族国家である。仏教徒は9割にのぼり、他にはキリスト教やイスラム教、ヒンドゥー教などを信仰する人がいる。

このドキュメンタリーは、クーデターが発生した2021年2月1日以前の映像に加え、その後起こった全国規模の抗議デモに繰り出し、ヤンゴンで逮捕状が出され、

逃亡生活を余儀なくされたコ・パウ監督の日常を綴っている。

コ・パウはミャンマーを代表する俳優・映画監督であり、コメディ映画からアクションのほか、社会問題に切り込む作品など、作風は広い。

ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルによるガザでの大量殺戮の長期化に伴い、ミャンマーで激化する内戦については報道がめっきり減っている。国際社会から忘れ去られようとしていることへの危機感が、本作品を制作し、世界へ発信する動機となっている。

現代では3回目となる今回のクーデターで、国



軍はアウンサンソーチー国家顧問ら民主派政権の幹部を拘束、非常事態宣言を発動して全権を掌握した。

それに反発した市民の抗議デモは不服従運動(CDM)と武力闘争へと拡大する。

人々の自由と平穏な生活は崩れていった。国軍の手段を問わない弾圧によって、すでに4800人が殺害され、約2万6千人が拘束され、避難民は250万人に上っているとされる。

民主派勢力は、志を同じくする諸民族の代表も加わって結成された暫定政府である国民統一政府(NUG)を樹立し、国の52%以上を支配下に置き、反攻の態勢を整えている。

コ・パウ監督は現在、民主派支配地区に滞在し、カレン二国民防衛隊(KNDF)と共に行動。現地の部隊を巡回し、経済的援助や精神的支援を行っている。

## シネマランド

## 軍事政権から指名手配された監督自身の闘いの実録

監督コ・パウ/2023年/ミャンマー/101分